島田人 Story

Shimadajin File #72

住民たちをつなぐ地域の要
小澤啓次（おざわけいじ）さん（中溝町）

子どもたちとの触れ合いの場を広げたい

5月に開店した中溝町駄菓子屋コミュニティ「なかみぞさんち」。小澤さんは自治会長として、その企画・運営に携わっています。地域の母親や高齢者と共に、子どもを育む取り組みは、お互いの居場所づくりにもつながっています。

【駄菓子屋開店に向けて】

「今の子どもは学校と家庭の往復で、昔みたいに友達同士で集まって遊ぶことが少なくなりましたね。町内の小学生を持つお母さんたちに聞くと、お小遣いの使い方も知らないって言うんです。親と買い物に行って、欲しいお菓子を買い物かごにポンって入れるだけ。それがいくらか知らないから、独りで店に行くと、お釣りのやりとりが分からない子もいるそうです」

そんな中「駄菓子屋をやってみたらどうか」という母親たちの提案を受けた小澤さんは早速、地域の高齢者グループや民生委員、子ども会などに相談。今年2月に実行委員会を立ち上げ、5月には運営組織を創設しました。

【子どもを育む交流の場】

住民の賛同で、話がトントン拍子に進んだと、小澤さんは振り返ります。

「開店日時は、下校時間が早い日に合わせることで、ボランティアの負担にならないようにも配慮しました。高齢者の皆さんも、月2～3回程度の店番なら、子どもたちと話や遊びができてうれしいと言ってくれました」

5月8日には、中溝町公会堂で駄菓子屋「なかみぞさんち」を開店。放課後になると、多くの幼児や小学生たちがお菓子を買いに訪れます。

「子どもたちは、自分でお菓子を選び、店番の大人と一緒に計算し、会話の中でお金の使い方を学びます。お小遣いをオーバーして、時には『おまけだ！』ってこともありますよ。でも、人間味があっていいよね。店番の顔も生き生きしてるよ」と顔をほころばせる小澤さん。地域住民と共に、和気あいあいと活動に参加しています。

【広がる地域のつながり】

「最近では、宿題を持って来る子もいます。みんなここで宿題をやる方が楽しいって言うんです。ある時『なかみぞさんち』に来た中学生に声を掛けたら、小学生の宿題を見てくれたんです。思ってもいなかった効果ですね。子ども同士でお菓子を分け合ったり、わいわい遊んだり。見ていてうれしいよ」

駄菓子屋を通じ、誰もが集える憩いの場づくりが進んでいます。

「近所を歩くと、子どもから『駄菓子屋のおじさん』って声を掛けられるんです。かわいいですね。他の人にも、きっと声を掛けていると思います。悪いことはできなくなっちゃったよ」と笑う小澤さん。子どもたちを思うその笑顔の連鎖は、地域全体に広がっています。

「なかみぞさんち」は毎週月・水曜日の午後3時～4時30分に開店

発行／編集 島田市市長戦略部広報課
〒427-8501 島田市中央町1番の1
☎ 0547-36-7118
http://www.city.shimada.shizuoka.jp
「広報しまだ」は、再生紙を使用しています。